淑徳大学広報誌

Together

SHUKUTOKU

http://www.shukutoku.ac.jp

No. 226 | 2019.4.1 Spring

特集

淑徳大学 独自の学びレポート

Cover Person

山口 董さん

（表現学科3年）

学長メッセージ
ご入学おめでとうございます

淑徳人
警視庁 勤務
土方 ももこさん
ともいきのこころ

学祖を知る 淑徳大学を知る

Campus News
知識モリモリ×福祉の仕事
ソーシャルワーカーは何をする人か
ソーシャルワーカーを活用しよう

ご入学おめでとうございます

淑徳大学　学長　磯岡（いそおか）　哲也（てつや）

2017年学長就任。研究分野は「宗教社会学（宗教を基盤とした人間集団の社会学的分析）」。日本宗教学会、日本社会学会、日本民俗学会、日本家族社会学会、「宗教と社会」学会等に所属。建学の精神、教育理念を踏まえた教育方法の開発に携わり、宗教教育のあり方に関する研究にも力を入れています。

not for him, but together with him

他者のためにではなく、他者とともにでなければならない　―学祖 長谷川 良信

ご入学まことにおめでとうございます。入学に際して学長として皆さんに二つのことをお伝えいたしたいと思います。一つは、建学の精神、もう一つは師友や多くの人々との出会いについてです。

淑徳大学は昭和40年に学祖長谷川良信先生により、社会福祉学部社会福祉学科の単科大学として開学しました。学祖は宗教大学（現大正大学）を卒業後、母校の社会事業研究室にお勤めになられ、大正7年二十八歳の時、東京巣鴨の二百軒長屋と呼ばれた非常に貧しい方々が住んでおられる地域の生活向上を志されました。

その志は次のように表現されています。「立って貧民を救え！　貧児を救え！　貧民窟に入って一生を奉仕の生活に捧ぐべきだ！」（「出発点のころ」昭和34年）学祖は実際、その二百軒長屋に移り住んで、生活を共にしながら学生を組織して子ども達の勉強会や住民の生活相談などの仕事をなされました。翌年『社会事業とは何ぞや』という著作のなかで「not for him, but together with him」（他者のためにではなく、他者とともにでなければならない）と書いています。これが、「他者に生かされ、他者を活かし、ともに生きる」という本学の建学の精神である「利他共生の理念」なのです。このように本学では、社会の諸分野で他者とともに生きることを志す人材を育成する目的のもとに教育活動が行われています。

次に、建学の精神とも関わりますが、先生や友人、多くの方々との交わりや絆を大切にしていただきたいと思います。大学時代に培った友情は、利害関係がなく全人格的で、かけがえのない宝物となります。将来の夢を純粋な気持ちで語り合うことができるのは、学生の特権といえるでしょう。また本学では親しみやすい教職員が多く、学生諸君から「学生と教職員との距離が近い」という評価を得ております。さらに、地域社会でのサービスラーニングや実習等を通じて多くの出会いがあることでしょう。その出会いを、大切にして欲しいと思います。

人と人とのつながりの意識や絆が弱まりつつある今日、つながりの再構築は、この社会の重要な課題の一つであります。新入生の皆さんには、ゼミや実習、サークル活動、サービスラーニングやボランティア活動などを通して、自分とは異なる他者との出会いと交わりを広げ、共に学ぶ学生生活を送っていただきたいと思います。

本学での学生生活が、多くの関わりを通して、限りなく充実したものとなることを心より祈念いたします。

◇各学部長

東京キャンパス
人文学部長
星野（ほしの）　英樹（ひでき）

埼玉キャンパス
教育学部長
加藤（かとう）　尚裕（たかひろ）

経営学部長
千葉（ちば）　千枝子（ちえこ）

千葉第二キャンパス
看護栄養学部長
茂野（しげの）　香（か）おる

千葉キャンパス
コミュニティ政策学部長
鏡（かがみ）　諭（さとし）

総合福祉学部長
大橋（おおはし）　靖史（やすし）

ともいきのこころ

皆さんは縁あって淑徳大学で学ぶ仲間となりました。
「共生（ともいき）」「思いやり」といった本学の理念に共感して入学を決めたことでしょう。
淑徳大学は、学祖・長谷川良信先生の理想の集大成として1965（昭和40）年に開学しました。良信先生がどのような思いでさまざまな事業に情熱を傾け、後に続く学生たちに何を期待したのか。それらを知ることは、皆さんのこれからの大学での学びの指針になるはずです。
良信先生も皆さんの活躍を温かく見守っています。

学祖　長谷川 良信

学祖を知る 淑徳大学を知る

「実学」とは「自分を活かす学び」

"not for him, but together with him"「彼のためではなく、彼と共に」という良信先生の言葉は皆さんも知っているでしょう。

6歳のとき仏門に入り、厳しい修行と勉学に励んだ良信先生は、大学（宗教大学。現在の大正大学）を卒業すると社会事業の道を歩み始めます。東京市養育院の巣鴨分院に勤務し、社会にあふれる家も親もない子どもたちの救済に情熱を傾けました。しかし、一年足らずで、当時は不治の病とされた結核に冒されてしまいます。生死の境をさまようほどの重篤な状態を脱した良信先生は、「自分の命を社会のために活かす」「精一杯生きて、自分の使命をやりぬく」ことを決意しました。つまり、仏教で言う「自利利他」（自分の尊い命を自他の自己実現に向けて完全燃焼させること）を体得したと言えます。

28歳のとき、宗教大学社会事業研究室に迎えられ、東京・西巣鴨の二百軒長屋に単身移住し、実踏調査と住民救済事業に身を投じました。粗末な家が建ち並び、不衛生で、一般の人は決して近づかなかった環境でした。ここで寝食を忘れて住民の生活改善や福祉の向上に力を尽くした実践から生まれたのが「彼のためにではなく、彼と共に」の言葉なのです。

「共生」は、一人ひとりのいのちが、他の一切のいのちと深いところでつながっており、自己のしあわせ（いたみ）と他者のしあわせ（いたみ）はその根本において別々のものではないという自覚から始まります。他者のいのちを尊重し、思いやり、自分が生きていることに感謝し、与えられたいのちを他者のために役立てていくことが「利他共生」の精神です。

「実学」とは、この精神を体験を通して自分に刻み込む学びであると言えます。良信先生は「実学」を、「実践を通して吟味体得された学問」であり、つきつめていくと「真に自己の人格に実りをもたらす学問」と述べています。一般に言う実用的な学問の意味とは異なります。このような考え方を理解したうえで、ボランティアや実習、サービスラーニングやアクティブラーニングの活動に取り組んでいってほしいと思います。

社会・地域と一体となって学ぶ

淑徳大学はキャンパス近隣の地域とのつながりを大切にしています。開学の地である千葉キャンパスは、大巌寺と一体をなす立地にあります。

大巌寺は、四百五十年余前の天文年間に創建された伝統ある浄土宗の名刹です。江戸時代には檀林と称して境内に多数の学寮を備え、多くの学僧が全国から集まって学ぶ学問寺でした。

良信先生は1951（昭和26）年に大巌寺の住職に就任すると、当時荒廃していた寺の復興を構想します。このことは淑徳大学の創設とも深い関係があります。

社会福祉事業家、教育事業家、そして浄土宗の僧侶であった良信先生は、「宗教・社会福祉・教育の三位一体による人間開発・社会開発」という実践にもとづく独自の考え方を持っていました。人々の自立を支えるような理想社会の実現や、それに貢献する人材を育成するためには、仏教の精神（大乗仏教とは、多くの人々を理想世界へ運ぶ大きなすぐれた乗り物という意味）と社会福祉、教育活動とが一体となって推し進める必要があるというものです。実学が、社会・地域のなかで学んでこそ実りあるものになるのは言うまでもありません。

この構想は「大巌寺文化苑」としてまとめられていきました。その内容を見ると、いかに斬新な発想であったかがうかがえます。その主要な施設・事業を紹介しましょう。

〈宗教〉本堂、総門、書院、鐘楼・梵鐘、不動堂、籠り堂など

〈福祉・教育〉淑徳大学社会福祉学部、研修館、学寮、浴場、付属カウンセリングセンター、栄養料理学校、産業福祉学院、郷土資料館、幼稚園、隣保館、老人クラブなど

〈スポーツ・レクリエーション〉グラウンド、テニスコート、プール、キャンプ場など

このような施設・事業をすべて含んだ「大巌寺文化苑」とは、宗教・社会福祉・教育とを三位一体とする空間にほかなりません。「開かれた大学」という考え方は今では一般的になりましたが、良信先生は半世紀も前から構想していました。

淑徳大学は、総合福祉学部、コミュニティ政策学部、看護栄養学部、経営学部、教育学部、人文学部とフィールドを広げ、それぞれの特徴を活かし、それぞれの地域で交流、社会貢献に取り組んでいます。「大巌寺文化苑」の構想も淑徳大学のその後の展開も、良信先生の精神を具現化するものです。

いのちの輝き、つながりを世界へ

良信先生の偉業のひとつにブラジル開教があります。ブラジルは明治時代後期から戦前・戦後にかけて多くの日本人が移住し、海外最大の日系人社会を築くまでになりました。南米各地の数多くの日本人を訪れ激励すること、寺院を建設し、宗教・社会福祉・教育・文化の拠点をつくることがブラジル開教の目的でした。

ブラジル訪問は、1953～1955（昭和28～30）年、1957～1958（昭和32～33）年、1962（昭和37）年の3回にわたって行われています。最初にブラジルに渡ったのが63歳のときであり、その行動力には驚かされるばかりです。しかも飛行機ではなく船でアメリカ経由でブラジルに入り、ブラジル全二十余州の大半を踏破して、約2000人の知縁を得たと言います。

1954（昭和29）年に「南米仏教浄土宗別院日伯寺」がブラジル政府の正式な認可を受け、さらに後年の日伯寺学園、こどもの園などの事業に発展していきました。こどもの園での知的障がい児童の救済事業は、良信先生が特に力を注いだことで、その功績を称え、現在、同園に通じる道路は「長谷川教授通り」と呼ばれ親しまれています。良信先生のブラジル開教の足跡は、例年3月に実施されている「ブラジル派遣研修」で辿ることができます。

また近年では海外研修旅行を実施しているほか、特にアジア地域との交流に力を入れています。2016（平成28）年には、アジアおよび世界における国際社会福祉・ソーシャルワーク研究の向上に寄与することを目的に「アジア国際社会福祉研究所」を設立しました。さらに2017（平成29）年に「国際交流センター」が稼働し、グローバル化を推進しています。

さまざまな課題を抱える国際社会で、「ともいきのこころ」なくして、人々がわかりあえることはできません。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、わが国が世界平和に重要な役割を果たすことが期待されています。淑徳大学も「長谷川良信記念・千葉市長杯争奪 車いすバスケットボール全国選抜大会」の開催を支援するなど、競技スポーツ・パラスポーツの普及に貢献してきました。皆さんもそれぞれの立場で、国際交流・貢献に携わってほしいと思います。

このように淑徳大学の学びは、学祖・長谷川良信先生から託されたバトンを確実に継承しつつ、時代の要請に合わせて新たな広がりを見せています。この環境を活かすのは皆さん自身です。淑徳大学で学ぶことを誇りに、自己実現に努めてください。

【長谷川良信先生の生涯】

○幼少期
1890年、茨城県西茨城郡南山内村字本戸（現・笠間市）で、長谷川治右衛門（父）・なを（母）の五男として生まれる。1896年（6歳）、茨城県真壁郡真壁町字古城（現・桜川市真壁町）の得生寺に養子として入籍。出家得度する。

○青年期
1910年（20歳）、宗教大学予科入学。1915年（25歳）、東京市養育院巣鴨分院に勤務。1916年（26歳）、胸部疾患に冒され、房総半島に転地療養、闘病生活に入る。1918年（28歳）、西巣鴨の通称「二百軒長屋」でセツルメント（隣保）事業を開始。そのほか、マハヤナ学園の創設、『社会事業とはなんぞや』の刊行など、社会事業専心期。

○壮年期
1922年（32歳）、内務省嘱託ならびに浄土宗海外留学生として欧米に社会事業研究のため派遣。そのほか、大乗淑徳学園の創設など、社会事業と教育事業を両輪としつつも、特に第二次世界大戦後は、戦後復興を期して教育事業に尽力する。

○老年期
1953年（63歳）、単身ブラジルに渡り、南米開教に先鞭をつける。その後も2回渡伯。1966年（75歳）、淑徳大学開学。1966年8月4日遷化（行年75歳）。

受け継がれた学祖の心―淑徳大学の現在の活動

車いすバスケットボール
全国選抜大会運営

地域ボランティア活動

被災地学習支援ボランティア
（2011年～）

ブラジル派遣研修（1986年～）

学祖の軌跡

千葉キャンパス新築工事（1964年）

第二次ブラジル開教時（1960年頃）

二百軒長屋（1918年頃）

淑徳大学 独自の学びレポート

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！
在学生の皆さん、4月となり新たな1年がスタートしました！
淑徳大学はカリキュラムや学生主体の活動として、サークルや部活以外にもたくさんの「学びの場」があります。大学では高校生活とは違い、多くのことを自分で学びとらねばなりません。
今回の特集では、「淑徳大学」で経験できるプログラムの一部をご紹介します。その先輩の背中を見ながら、さまざまなことを吸収しています。

昨年度（2018年4月～2019年3月）実施概要を掲載しています。2019年度の実施要領につきましては、担当部署にお問合せください。開催時期は変更する場合があります。

report 1

第8回 雄勝学習支援ボランティア

宮城県石巻市雄勝町の石巻市立雄勝中学校にて雄勝学習支援ボランティアを実施いたしました。今回は、現地の中学生への学習指導を中心に、部活の練習や駅伝の練習に参加し、学生と生徒の交流をより深める良い機会となりました。また、雄勝中学校の教頭先生からは、普段あまり接する機会のない大学生という異なる世代との交流が、生徒にとって良い刺激になるとのご感想をいただきました。

【実施日程】2018年7月31日（火）～8月3日（金）
【参加費用】15,000円
【担当部署】淑徳大学地域支援ボランティアセンター

report 2

第6回 スタディーツアー

岩手県陸前高田市および宮城県牡鹿郡女川町にてスタディーツアーを実施いたしました。今回、陸前高田市では陸前高田市市役所、「りくカフェ」、元南三陸消防署副署長の被災体験の講話をしていただき、女川町ではNPO法人コバルト・クロス・カムイミンタラの主催者による被災地を支援する側の講話をしていただきました。被災者の心境、自らが被災しながらも他の被災者を助ける人の心境など、どれも学生の心に響く内容であり、被災してなお立ち上がる人の強さを学ぶ機会となりました。

【実施日程】2019年2月13日（水）～2月15（金）
【参加費用】15,000円
【担当部署】淑徳大学地域支援ボランティアセンター

report 3

第9回 パネルシアター キャラバン

宮城県石巻市および山元町を訪問いたしました。今回は、水押保育所、石巻子どもセンター、飯野川保育所にてパネルシアターを行いました。どの公演も評判がよく、笑顔が会場に広がり、学生も非常に満足いくものとなりました。

【実施日程】2019年2月24日（日）～2月26日（火）
【参加費用】15,000円
【担当部署】淑徳大学地域支援ボランティアセンター

report 4

淑徳大学スペシャルナイター

淑徳大学が協賛している千葉ロッテマリーンズの冠試合イベントとして、「淑徳大学スペシャルナイター」を毎年夏に開催しています。コミュニティ政策学部のサービスラーニングセンターのプロジェクトとして企画・運営していて、2018年度で10回目の開催となりました。

コミュニティ政策学部の学生43名が企画・運営を行い、看護栄養学部、総合福祉学部、車いすバスケットボール全国選抜大会実行委員会、ジャグリングサークル「徳能雑技団」と連携して、合計83名の学生が参加しました。

また、WOWOWエンタテインメント株式会社と連携したアプリによる球場内での実況動画の配信、民族衣裳文化普及協会と美浜区高校生連携会議と連携した浴衣を活用した企画など、学外の団体等とも連携しました。

【実施日程】2018年8月24日（金）
【参加費用】特になし
【担当部署】千葉キャンパス サービスラーニングセンター

report 5

東京ガールズコレクション インターンシッププロジェクト

『マイナビ presents 第27回東京ガールズコレクション2018AUTUMN／WINTER』が9月1日にさいたまスーパーアリーナで開催されました。本学からはインターンスタッフとして物販やフィッター、取材サポート、撮影サポートなど17名が参加しました。開催前の8月22日には、東京ガールズコレクションの取り組みやトレンドキーワードの発信などをテーマに盛りこんだインターン事前学習会が渋谷で開かれ、インターン学生は積極的に取り組んでいました。

また、今年3月30日には『マイナビ presents 第28回 東京ガールズコレクション2019SPRING／SUMMER』が、横浜アリーナで実施されます。

今回も3キャンパス合わせて15名がインターンに参加します。前回同様、3月7日、渋谷にて、事前学習会が開催され、東京ガールズコレクションの概要や歴史、スタッフとしての心構えなどを学び、当日に備えました。本プロジェクトでは、今後も多くの学生がさまざまな体験を積んでいくことが期待されます。

【実施日程】2019年3月30日（土）
【参加費用】特になし
【担当部署】千葉キャンパス サービスラーニングセンター

●各キャンパスの学び●

千葉キャンパス

白旗七夕まつり

毎年7月の第一土曜日には大学に隣接する白旗地区で白旗七夕まつりを実施しています。

白旗町内会・白旗商店会・淑徳大学の3者が協力をして七夕まつりを企画・運営します。当日は近くの保育園や小学生に書いていただいた短冊を飾り、町内会や大学生による模擬店の出店、学生消防団による活動の紹介、ダンスサークルやジャグリングサークルによる演技、アメリカンフットボールクラブによる体験会、ビンゴ大会などが開催されました。また、地元の生浜高校の高校生たちもオリジナルアイスクリームの模擬店を出店しました。

当日は、家族連れなどたくさんの来場者や地元の参加者たちがお祭りを楽しんでくれました。大学と地域のつながりを身近に感じられるイベントになりました。

【実施予定】2019年7月6日（土）

千葉第二キャンパス

健康フェスタ

千葉第二キャンパスでは地域住民の方々へ日頃の感謝の気持ちを表す企画として「健康フェスタ」を10月に開催しました。看護栄養学部の学生・教員は、身体計測、血圧測定、AGEs（最終糖化産物）測定ならびに健康相談を担当しました。健康相談は栄養相談（栄養学科学生・教員）と健康相談（看護学科学生・教員）に分かれ、それぞれの専門分野の立場からアドバイスをしました。

当日の運営は、測定や相談コーナーの担当の他、受付や案内なども学生が中心となって実施しました。地域の方から100%「満足」との評価をいただきました。

今年度も秋に開催予定です。

熊谷千葉市長（右から3番目）も駆けつけてくださいました

ロッテマリーンズ応援ブースを出展しました

健康フェスタ受付付近の様子
学生が会場の案内をしています

健康相談の様子
教員と学生がペアになって、地域住民の方の相談に応じています

海外研修

淑徳大学では、学生の皆さんにさまざまな海外研修プログラムを提供しています。海外研修を通し、単に語学力を向上させるだけでなく、異文化を理解し、視野を広め、21世紀の国際社会に適応できる人材の養成を目指しています。募集時期になりましたらS－naviや掲示等で随時お知らせしていきます。留学や海外研修に興味のある方は、ぜひ在学中に淑徳大学の海外研修にチャレンジしてみて下さい。

なお、詳細は千葉キャンパス 国際交流センターまでお気軽にお問合せ下さい。

※ブラジル研修は、各キャンパスで数名ずつ研修生を選考します。（応募時に1～3年生であること）その他の研修はすべての学年で参加申込ができます。（先着順）

report 6

ブラジル研修（春期）

本学では1986年から南米ブラジルに研修生の派遣を実施しており、これまで33回にわたり学生を派遣してきました。学祖・長谷川良信先生の社会福祉実践家としてのブラジルでの事跡を学ぶことによって建学の精神に触れ、改めて淑徳大学で学ぶ意味や、自身の将来像や生き方を見つめ直すことを目的としています。また、日系社会との交流、ブラジル社会の多様な文化・環境・価値観に触れることで、国際的視野を広めることもねらいとしています。研修期間は約3週間で現地の協力のもとに行われます。学祖の建立したサンパウロ日伯寺での研修を始め、和順会老人ホームや「こどものその」（知的障がい者福祉施設）を訪問し、見学や実習を行います。また、コーヒー農園での体験実習、ブラジルの一般家庭に3泊のホームステイも含まれています。研修後半ではフィールドトリップとして世界自然遺産であるイグアスの滝を見学するなど、淑徳大学ならではの非常にユニークな研修です。

【実施日程】2019年3月7日（木）～3月24日（日）
【参加費用】大学負担

report 7

カナダ・トンプソンリバーズ大学英語研修（夏期）

英語学習に加え、異文化コミュニケーションを学び、大自然を満喫できるアクティビティも組み込まれた、3週間の短期英語研修プログラムです。英語学習は、「聴く」「話す」を中心とした英語コミュニケーション能力の向上を目的としており、世界各国からの留学生と一緒に学びます。生の英語、カナダの文化に触れてみたい、大自然を満喫したい、ホームステイを体験したい方におすすめのプログラムです。

【実施日程】2018年8月6日（月）～8月26日（日）
【参加費用】約50万円

report 8

中国・天津大学異文化研修（夏期）

中国でも名門の天津大学で実施する異文化体験プログラムです。中国語初心者を対象にした中国語の講義に加え、世界遺産である万里の長城、故宮博物院や天安門広場の見学、伝統文化の体験など、8日間の日程で盛り沢山の研修内容です。前半は天津大学の寮に泊まり、後半の北京ではホテルに泊まります。

【実施日程】2018年8月19日（日）～8月26日（日）
【参加費用】約13万円

report 9

フィリピン・セブ島英語研修（春期）

マンツーマン＋グループレッスンで、自分のレベルに合わせて英語漬けの毎日を送れます。充実した英語コミュニケーションをとることで、より英語を好きになって次のステップへ繋げるのが「セブ島語学研修」です。現地では、通常の観光では見ることのできないシティーツアーや、子ども達との交流のスタディーツアーも組み込まれています。2週間コースまたは3週間コースのいずれかのコースを選ぶことができます。

【実施日程】2019年2月3日（日）～2月17日（日）
（2週間コース）

2019年2月3日（日）～2月23日（土）
（3週間コース）

【参加費用】約25万円（2週間コース）
約28万円（3週間コース）

●各キャンパスの学び●

千葉第二キャンパス

看護栄養学部地域連携委員会、学生ボランティア、千葉市中央区松ケ丘地区の地域連携活動の取組み

【オレンジカフェ】認知症であっても地域住民が安心して暮らせるための地域のカフェ作りを目的に月1回、第一土曜日に開催しています。主なプログラムは健康・栄養講話や各種アクティビティーで、ボランティア学生が手作りのお菓子を製作、茶菓の提供サービスに協力しています。

【子ども食堂】一昨年度より、年に6～12回開催しています。共働き世代の多い地域で昼食時の孤食対策が目的で、栄養学科の学生が献立・作業工程表・食材料発注リスト・ぬりえ式リーフレットの作成を行います。実施日には地域育成委員と学生ボランティアが調理し、25食程度提供しています。

埼玉キャンパス

「サマーナイトフェスタ」&「サイレントナイトコンサート」

毎年7月と12月に開催される、埼玉キャンパスの学生団体による一大イベントです。サークル・クラブ連絡会を中心に、学生たちが学部やサークル間の垣根を越えて、企画・運営から演出まで協力し合ってひとつのステージを作り上げています。バンドやアカペラ、ダンスなど盛りだくさんのステージは、学生たちが日頃の活動の成果を発揮できる貴重なチャンスとなっています。回を重ねるにつれ、パフォーマンスや演出のレベルが上がっており、毎回300名以上の学生で盛り上がります。

サイレントナイトコンサート2018

埼玉キャンパス

「就活シミュレーション」

就活直前、3年生向けに「就活シミュレーション」を実施しています。このイベントでは、架空の企業の求人を想定した就職活動を疑似体験します。学生が就活前にたくさん失敗できる「練習試合」の場と位置づけています。事前に郵送したエントリーシートを元に、筆記試験、グループディスカッション、グループ面接を体験します。採点官は企業採用担当者にご協力をいただいており、自分に何が足りないのか、何をしなければいけないのかを知ることが出来ます。まさに本番さながらの形式で実施する「埼玉キャンパス名物イベント」です。

グループディスカッション後、企業の方によるフィードバック中

埼玉キャンパス

小学校教員を目指す学生の自主的・実践的な学び「淑徳教師養成塾」

「淑徳教師養成塾」は、小学校教員を目指す教育学部の学生が、学校現場や地域行事などで子ども達と関わり学ぶボランティア活動です。多くの学生が、週に1日設定されている授業の無い日に、提携市町の学校で子ども達の支援を行っています。また、夏季休暇中には教育委員会が主催する宿題教室などの支援を行っています。これらの自主的な支援活動を通して、学生は指導の仕方や子どもとの関わり方を実践的に学び、教育現場で通じる教員としての力量を身に付けていきます。2018度の夏季休暇中には延べ200人の学生が夏季淑徳教師養成塾に参加しました。

夏季淑徳教師養成塾で子ども達の支援をする学生

淑徳人 No.226

HIJIKATA Momoko

土方 ももこさん

警視庁　勤務

警視庁第四方面交通機動隊に所属し、女性白バイ隊員として国民の安全を守る任務に日々従事している土方さん。今年の「第95回東京箱根間往復大学駅伝競走」では警視庁に在籍する約50名の女性白バイ隊員の中から、高い運転技術が評価されて警視庁で初となる女性白バイ隊員として往路１区の先導に起用されました。「自分がここまで来れたのも、家族はもちろん、恩師や仲間の支えがあったから」と土方さんは何度も繰り返し話されていました。

2012年3月、国際コミュニケーション学部 人間環境学科卒業。警視庁に入庁、希望していた白バイ隊員となり、昨秋に開催された「第49回全国白バイ安全運転競技大会・女性の部」に初出場で優勝し、警視総監賞も受賞。全国の女性白バイ隊員から選抜された37名の頂点に。現在は警視庁第四方面交通機動隊に所属。

在学中は柔道一筋でその情熱は白バイへ、幼少期からの夢「箱根駅伝先導」を警視庁女性初として叶える

土方さんは運転技術を維持向上する一環として開催される大会で優勝。その高い運転技術が評価され、今年、警視庁白バイ隊員として女性初の箱根駅伝往路１区の先導を任されました。

そんな土方さんが、なぜ女性白バイ隊員を目指したのか。その想いは幼少期まで遡ります。

幼少期から憧れ続けた箱根駅伝の先導

「毎年箱根駅伝をテレビで見ていて、小学生の頃からずっと興味がありました。当時、女性白バイ隊員はいないし二輪車への憧れもなかったのですが、警察官が大きな白バイに乗って先導する姿がすごく格好良くて。その後、女性初の白バイ隊員誕生というニュースを受け、就職先はここしかないと決意しました」。

恵まれた施設と仲間に囲まれた女子柔道部での生活

信念のある土方さんですが、学生時代にはこんなエピソードが。

「野球が好きで日大三高では野球部志望でしたが、結果的に女子は入部できませんでした」。そこで出会ったのが柔道競技で、淑徳大学では強化育成クラブである女子柔道部への入部を決意。「女子柔道部は当時20名ほどの部員がいましたが、武道場は十分な広さで、２階にはトレーニング室が完備されていて、とても恵まれた練習環境でした。しかし怪我が多く、１年間休むこともあり結果を残せませんでした。仲間や監督、顧問の先生方からたくさんのことを学ばせていただき、財産となりました」。

女子柔道部は全寮制で３人部屋でしたが、今でも思い出すとニコニコしてしまうほど楽しい思い出ばかりだそうです。個人競技なので仲間でありライバルでしたが、「私が怪我で練習できないときには一生懸命励ましてくれたり、自分も怪我をしたことがあるから分かるよと言ってくれたり」。かけがえのない仲間とは卒業後も食事を一緒にするなど付き合いが続いていて、刺激を貰うそうです。そんな切磋琢磨できた仲間がいたから強くなれたのだと思います。

「恩師である野瀬英豪監督や顧問の小川博章先生には、警視庁の採用試験の面接練習をしていただきました。柔道一筋の学生生活で自分のことを理解してくれるお二人にご指導いただいたおかげで今の自分があるのだと感謝しています」。

後輩へのメッセージ

在学生や受験生に向けての言葉として、土方さんはこれまでの質問の中で一番じっくり考えて答えました。

「《夢は願えば叶う。だからこそ強く意志を持って頑張って欲しい》ですね。その夢を実現させてくれた家族や恩師、友人に恩返しをするために、たくさんの後輩たちを指導していきたいと思います」。

念願の白バイ隊員になり、箱根駅伝の先導という夢も果たした土方さんは、指導者という目標へと向かっているようです。

Photo × Photo

【箱根駅伝の先導】
2019年1月に行われた「第95回東京箱根間往復大学駅伝競走」第1区で先導する土方さん。「沿道に注意を払いながら、選手の安全を確保することが務めですが、選手たちにも頑張ってほしいという思いもありました」。箱根駅伝の先導で警視庁の担当は第1区と10区のみ。白バイでの先導は4名しか任命されません。

【全国白バイ競技大会で優勝し、警視総監賞も受賞】
「第49回全国白バイ安全運転競技大会・女性の部」にて、初出場し優勝することができました。「先輩や同僚からの指導、アドバイスのおかげです。今後は後輩の指導にあたりながら、交通安全活動にも励んでいきます」。

report 10

B・LEAGUE「千葉ジェッツふなばし」冠試合を開催！

淑徳大学は、プロバスケットボールチーム「千葉ジェッツふなばし」のオフィシャルスポンサーとして昨年度に引き続き冠試合を行いました。

５２００名を超える観衆の中、磯岡学長が挨拶で千葉ジェッツに熱いエールを送り、手話サークルたんぽぽが手話ソング２曲を披露、81対79で千葉ジェッツが勝利し、会場は熱気に包まれました。

コミュニティ政策学部・八田和子先生指導のもと、バルーンアートでハートスティックや剣を作って先着５００名に配布し、小さなお子さんも喜んでくれました。

試合後は選手の皆さんと勝利の笑顔で記念撮影しました。

淑徳大学のパフォーマンスは毎年変わりますので、皆さんのご提案をお待ちしています！

【実施日程】2019年1月23日(水)
【参加費用】特になし
【担当部署】淑徳大学地域連携センター

report 11

長谷川良信記念・千葉市長杯争奪 車いすバスケットボール全国選抜大会

車いすバスケットボールはドイツではプロリーグがあるほど世界中で盛り上がるパラスポーツの花形競技です。２０１０年に車いすバスケにハマった学生３名が力を合わせ第１回大会を２号館アリーナで開催しました。出場チームは日本代表選手が勢揃いの全国上位４チームのみで全試合ハイレベル。学生実行委員会は１年間を通してこの大会の運営すべてを担います。必要経費は企業を訪問して獲得し、審判の手配なども学生が責任をもって行います。大会以外にも選手と協力して大型ショッピングモール等で体験会を開き、車いすバスケを一緒に楽しむファンづくりにも力を入れます。第４回大会からは「車いすスポーツの聖地」をめざす千葉市と（公財）千葉市スポーツ振興財団と共催、会場は千葉ポートアリーナ、出場６チームと規模が拡大しさらなる熱戦が繰り広げられています。学生の想いから生まれたこの大会はいまや大学を飛び出して、２０２０年の先へとつながっています。

【2018年度 実施日程】2019年3月2(土)・3日(日)
【2019年度 実施日程】2020年3月7(土)・8日(日)
【参加費用】特になし
【担当部署】千葉キャンパス 地域連携室

●各キャンパスの学び●

東京キャンパス

地域連携プログラム「八潮こども夢大学」

淑徳大学では、大学全体として地域連携を進めています。人文学部もその例外ではありません。数多く実施されている地域連携プログラムから、「八潮こども夢大学」を紹介します。

このイベントは、本学が連携協定を結んでいる埼玉県八潮市との共同実施で開催しています。同市に住む小学校高学年の児童を対象とし、本学に来学してもらい、大学を実体験することを趣旨としています。２０１８年度は12月18日に「比べてみよう昔の暮らし」というタイトルのもと、歴史学科で博物館学芸員課程を履修している2年次生がこれに参加。歴史についての学びを小学生とともに深める機会となりました。

東京キャンパス

地域・企業と連携し、課題を解決したり、広報したりする活動

表現学科の特長を活かした正課外プログラム

板橋区役所・志村警察署、あるいは、企業などと連携し、表現学科の特長を活かしたプログラムで、学生が学び活躍する「場」が学外にも増えています。

板橋区のさまざまなイベントでの司会進行・アナウンス、外国人向け冊子の作成・配布、特殊詐欺防止キャンペーンのためのキャラクター開発・ポスター作成、商品の広告制作などがあります。これらのプロジェクトは、２年目、３年目を迎えています。

本年度、初めて取り組んだプロジェクトに、「食品ロスを減らすための動画ＣＭ」があります。板橋区と本学との共同プロジェクトということで、２０１８年８月に立ち上げ、半年にわたって進めてきました。板橋区を舞台にした実写ＣＭが１本、アニメ制作の手法を使ったＣＭが１本完成しています。今年度からは、さらにさまざまなメディアへ登場することになるでしょう。

社会のことに興味関心を持ち、学科の特長を活かした学びで社会に貢献できることが、これらのプロジェクトの原動力となっています。

千葉
CAMPUS

総務省消防庁主催の「消防団入団促進用ポスター・リーフレット・映像の制作」に本学の学生消防団員が全面協力しました。

中庭にて映像を撮影中

総務省消防庁による消防団への理解および入団促進を図ることを目的とした、全国展開PR資料「ポスター・リーフレット・映像」制作に関して、千葉市消防局を通じて本学の学生消防団員に出演の依頼があり、梅田舞佳さん（コミュニティ政策学科2年）ほか学生消防団員が制作協力しました。このポスターやリーフレットは全国に210万部配布されるほか、47県庁所在地の最寄駅には大判ポスターも掲示されています。さらに総務省消防庁の消防団公式ホームページでは中庭での訓練風景のほか授業中の風景などが織り込まれた2種類の動画を見ることが出来ますので、是非ご覧ください。

【動画はコチラから▶】
http://www.fdma.go.jp/syobodan/movie/index.html

ベトナム国際福祉交流プログラム

老人ホーム・ティンロンドックにて

世界遺産のタンロン遺跡にて

3月3日（日）から1週間、社会福祉学科2年生5人がベトナムを訪問し、ハノイ市内の技能実習の送出機関、老人ホーム、公立高校などにて日本語を学ぶ研修生や学生と交流しました。日本の福祉現場において外国人介護士が多くなることを踏まえ、これから訪日する方々と交流し、若者の文化や生活を学ぶ機会となりました。

技能実習の送出機関や老人ホームでは、本学学生がモデルとなり一緒に演習を行い、また、公立の高校や中学校の日本語教室では日本とベトナムの若者の流行や文化を紹介し合いました。既に多くの中学校、高校で日本語教育が始まっており、改めて日本に対する関心の高さを感じました。さらにハノイ周辺の世界遺産や農村地区の方のご自宅を訪問し、ベトナムの生活を肌で感じました。

今回の訪越は初めての試みでしたが、来年もまた3月頃に予定しています。

国立中学校の日本語教室にて

千葉第二
CAMPUS

「おしごとセミナー」で将来の自分のイメージづくりをする

講演後の質疑応答の様子（上）

学生はスーツ姿で緊張感をもってお話をうかがいました（左）

栄養学科では1、2年生を対象に、将来の自分をイメージするサポートとして「おしごとセミナー」を毎年開催しています。栄養の専門家として各分野で活躍している方の講演を聞いたり、就活の進め方や企業の動向などの情報を得たりする貴重な機会です。

今年は1月24日（木）に、4名の講師を招いて開催しました。午前中はキャリアカウンセラーや、就職専門業者の方からワークを通して自分を理解することに取り組みました。午後は事業所給食と企業の研究所での管理栄養士の役割について、具体例を挙げてお話いただきました。学生時代に経験しておくとよいこともうかがうことができ、将来を見据えながら学生生活をどのように過ごすかを考えるよい機会になりました。

看護師・保健師国家試験の奏功会が開催されました。

田中秀子学部長（当時）より国家試験に向けてのエールが届けられました

廊下に飾られた全教員からの合格祈願メッセージ

2月4日（月）、千葉第二キャンパスでは、看護師・保健師国家試験の奏功会が開催されました。本学部では、目標どおりの成果をあげることを期待し「壮行」ではなく、あえて「奏功」を使用しています。

本学部では開設当初より、非常に高い看護師・保健師の国家試験の合格率を維持しています。これらの結果は、学生の努力はもちろんのことですが、低学年からのきめ細やかな学修支援と最終学年で引き継がれるキャリア支援の成果です。奏功会は、主にキャリア支援委員会と看護学科3年生が中心となって企画・運営をしています。今年も、教職員、在校生からの熱いエールが込められた心温まる会となりました。

「淑徳大学看護栄養学部看護学科　看護師・保健師国家試験全員合格！！」を目標に、みんなの気持ちを一つにした思い出に残る一日となりました。

東京 CAMPUS

「卒業研究発表会」「演劇発表会」が行われました。

表現学科では、1月22日（火）に「卒業研究発表会」、24日（木）には「演劇発表会」が行われました。「卒業研究発表会」では、4年生の各ゼミ代表5名による卒業研究のプレゼンテーションが行われ、表現学科3・4年生がそれぞれの研究発表に聞き入りました。

そして、24日には、「演劇発表会」が行われ、1年生が「創作表現技法（演劇）」の授業の中で作り上げてきた6作品が、上演されました。毎年、グループに分かれ、演じることはもちろん、脚本から演出、照明、音響、舞台装置まで、学生自身の手によって作られます。今年度も、ユニークでバラエティに富んだ個性豊かな作品がそろいました。

「教育実習報告会」の開催

歴史学科では、1月30日(水）に「教育実習報告会」を開催しました。当日は、2018年度に教育実習を行った4年次生16名がポスターセッション形式で、教育実習の様子を報告。教職課程を履修している1年次生から3年次生を対象に、教育実習で学んだことや実習前にやっておくべきことを、ひとり8分の持ち時間で熱心に話していました。

報告終了後には、板橋区教育委員会から来学された先生による講評と講義があり、「良い教員とは、どのような教員なのか」という問いかけに、参加した学生も教育実習全般に関する理解を深めていました。

参加した3年次生の女子学生は、「自分たちも来年この立場になるということを考えると、身の引き締まる思い。事前の準備をしっかりと頑張ります」とコメントを寄せていました。

「教育連携に関する連絡調整会議」を開催しました。

教育学部では年に1回、「教育連携に関する連絡調整会議」を開催しています。

初等教育コースは1月8日(火）に、幼児教育コースは2月5日(火）に、それぞれ各種実習やボランティアなどの受け入れでお世話になっている4市1町の教育委員会、あるいは認定こども園、幼稚園、保育所などの皆様にお集まりいただきました。

会議では、日頃の感謝をお伝えするとともに、コースの教育活動を改めて紹介させていただきました。また、来年度から特別支援教育にも力を入れていくため、さらなるご協力をお願いしたいことなどお伝えするとともに、学生の受け入れに関しての要望や質問なども含めた情報交換もさせていただきました。

2018年度「ジョブフェア」を開催

学生たちはしっかりメモをとり、就職への意欲の高さを感じました

2月13日（水）、埼玉キャンパスで業界研究セミナー「ジョブフェア」が開催されました。これは、総合キャリア支援室が企業に呼びかけて、学内で会社説明会を行うイベントです。

旅行、ホテル、鉄道、空港などの観光産業をはじめ、金融、メーカー、不動産、小売、流通、ITソフトウエアなど32社のブースが設けられました。

タイムスケジュールを5部に区切り、企業はブースで同じ説明を5回繰り返します。学生は1回ごとに企業を選ぶことで、32社の中から5社の説明を聞いて回ることができます。

当日は117人の学生が、延べ493人回の説明会に参加しました。1人あたり平均4.21社の説明を聞けたことになります。

3月1日の就職活動開始を控えた3年生にとって、人事の方々のお話をじっくりうかがえる貴重な機会となりました。

埼玉 CAMPUS

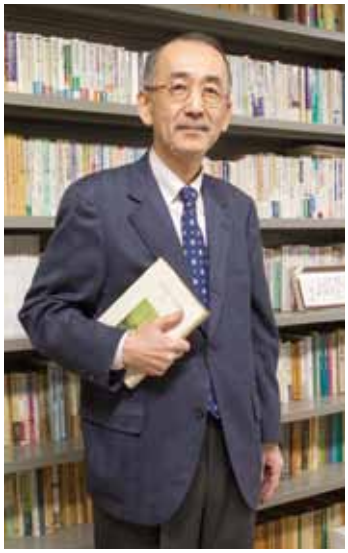
「課外活動結果報告会」を開催

1月22日（火）、埼玉キャンパスにて2018年度「課外活動結果報告会」を開催いたしました。強化・認定団体および準認定団体（各種クラブ・サークル）の代表者から、今年度の活動結果と来年度に向けた熱い抱負が聞かれました。

埼玉キャンパスでは学生団体が中心となって、学園祭やサマーナイトフェスタ、サイレントナイトコンサートなどの行事を運営し、キャンパスを盛り上げてくれています。近年では地域にお住まいの方々との協働によるイベントやボランティア活動、地元小学校の先生方との自主研修会を開催するなど、地域と連携した活動も盛んに行われており、開かれた大学として交流の輪を広げています。

活動報告とともに次年度に向けた活動への抱負を語りました

SHUKUTOKU Together 226
The Shukutoku University Newsletter
発行日：2019年4月1日　編集：大学広報編集委員会　発行：大学事務局　制作協力：株式会社図書出版



知識モリモリ × 福祉の仕事

総合福祉学部　社会福祉学科
佐藤 俊一 教授

第22回 ソーシャルワーカーは何をする人か

ソーシャルワーカーを活用しよう

誰の人生、どの家庭でもさまざまな問題が起こり、また人生とは現れる課題に対処することで豊かになる歩みだと言うこともできましょう。具体的には、「子育てで悩む」「親の介護で相談できる人がいない」「失業して再就職をしようとしたら病気になった」など、生活の問題は年齢や生活スタイルに関係なく、幅広く起こります。そうしたときに、本人の力や周りの人たちの協力で問題に取り組み解決できればいいのですが、往々にして孤立し、周りに相談できないことがあります。

安心してください、ソーシャルワーカーがいます。ソーシャルワーカーは、相談者に対して一方的に支援するのではなく、一緒になって考えていきます。そして、本人の主体性を尊重し、最終的に本人がどのような生活をしたいのかを決められるように支援します。もちろん、ソーシャルワーカーも一人ではできませんし、オールマイティでもありません。多様な社会資源につなげ、地域で他の専門職やボランティアなど多くの人たちとネットワークを作って支援していきます。また、相談における秘密は守り、個別性を尊重した対応をします。ぜひ、こうした仕事をするソーシャルワーカーがいることを知ってください。

※「知識モリモリ×健康モリモリ」を今号から改題しました。

表紙の人 No. 226

COVER PERSON　人文学部 表現学科 3年　山口（やまぐち） 菫（すみれ） さん

新一年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。私は、放送研究会とHEARTサークルという2つのサークルに所属しています。

放送研究会では、実際のコミュニティFMなどで、毎週2時間生放送の番組などを半年ほど経験させていただきました。HEARTサークルでは、主に板橋区のイベントのボランティアをしています。大学の授業だけでなく、学外に出て様々な方と交流することは、自分の糧になります。

わからないこと、困ったことがあったら、是非先生や友人・先輩に相談してください。

編集後記

編集会議のあと、毎度のようにヘトヘトになる。事実関係や氏名など、間違ってはいけない情報ばかりなので、かなり神経をすり減らす作業である。目も疲れる。この5年間で老眼が進んだのは、Togetherの編集によるところが大きいのではないかとまで考えてしまう。

もしこの編集後記に、誤字や脱字があっても、どうか温かい目で読み飛ばして欲しい。

前回編集後記を書いたのは、本学に赴任したばかりの時期だった。業務内容も知らないまま、広報委員に任命され、はじめて出席した会議で「次回の編集後記は、東京キャンパスの順番なので、お願いします」と言われた気がする。この記憶が曖昧なのは、たった今、編集会議を終えてこの文章を書いているからである。（以下本文の文頭に戻る）。

この後記を読んでいる人には、本紙に目を通していただき、本当にありがとうございます、とお礼の言葉を申し上げたい。新年度、どうか良いことがありますように。（田中）

「淑徳大学広報誌」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております！　reply@soc.shukutoku.ac.jp

千葉キャンパス
総合福祉学部　コミュニティ政策学部　大学院 総合福祉研究科
〒260-8701 千葉県千葉市中央区大巌寺町200
TEL：043-265-7331

埼玉キャンパス
経営学部　教育学部
〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
TEL：049-274-1511

千葉第二キャンパス
看護栄養学部　大学院 看護学研究科
〒260-8703 千葉県千葉市中央区仁戸名町673
TEL：043-305-1881

東京キャンパス
人文学部　淑徳大学短期大学部
〒174-0063 東京都板橋区前野町6-36-4
TEL：03-3966-7631